



RubyWorld Conference 2012 開催報告

2012年11月8日(木)、9日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、4回目となる「RubyWorld Conference 2012」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまねOSS協議会、経済産業省中国経済産業局)、共催は情報処理推進機構(IPA)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

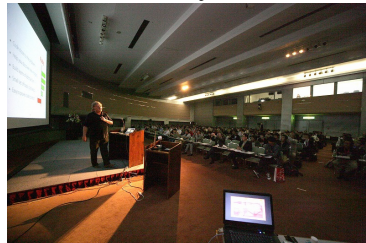


今回の国際会議では、Rubyに関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、言語仕様の標準化の動向などを紹介する様々なセッションを通じて、Rubyがより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外16名が講演し、来場者数は2日間で延べ949名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛島根県知事、松浦正敬松江市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 江口純一情報処理振興課長に、来賓ご挨拶をいただきました。



引き続き基調講演では、Rubyの開発者まつもと委員長が「How to change the world」と題し講演。また、2日目の基調講演では、英語圏において最初にRubyを取り上げた書籍「プログラミング Ruby」の著者としても知られているDave Thomas氏が「The Limits of Language」と題して、プログラミングの目的であるコミュニケーションについてRubyとどの様に関係しているのかご講演いただきました。



初日の午後は、松浦正敬松江市長と株式会社テクノプロジェクトによる松江市の政策統計システムについて導入の背景や効果、今後への期待などユーザの視点からお話いただきました。その他、国内外のRubyの技術者、企業、研究者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年のConferenceの開催意向が表明され、閉幕しました。

●来場者について 2日間延べ 949名(11月8日 577名、11月9日 372名)

来場実数 674名(県内 406名、県外 259名、海外9名)

- ・IT企業関係者 304名(県内118名、県外186名、海外6名)
- ・その他企業関係者 89名(県内56名、県外33名)
- ・行政関係者 59名(県内47名、県外12名)
- ・研究教育機関関係者 173名(県内166名、県外7名)
- ・一般(所属なし) 27名(県内13名、県外14名)
- ・講演者 16名(県内6名、県外7名、海外3名)

●講演者について

- ・国内13名(企業関係者9名、教育研究機関2名、行政機関2名)
- ・海外 3名(アメリカ2名、ドイツ1名 うち企業関係者2名)